



まさゆき 神原
かんばら 神原

でるた

単身赴任をするようになって五年がたった。広島は私の故郷であり、広島を思う気持ちは以前にも増して強くなったように思う。

私は小学生のころ、近所の校長先生であった

故天満良三先生からピアノの手ほどきを受けた。先生は厳しくもあり、優しくもあり、何よりも人間的であった。不出来な私と一緒に連弾をしたり、地域の歌を編曲したりして皆で合奏をした。こうして音楽の^{よび}喜びを教えていただいた。

さて、あれから相当の時間が流れ、私は今、音楽学生に講義をしている。その中で、音楽の価値は次の四点に集約されると語

っている。

その第一は「情動性」である。音楽に癒やされ、勇気づけられた経験をお持ちの方は少なくない。音楽はすべての人に等しく情動的恩恵を与えている。

第二は「芸術性」である。芸術作品には個性と品格がある。

芸術性はそれを学び得た人のみに与えられる贈り物なのかもしれない。

第三は「文化性」である。音楽には古今東西の人々の暮らし

や情感が織り込まれている。「音

戸の舟歌」や「中

国地方の子守唄」はその象徴だろう。

第四は「人間性」である。音楽にはその音楽を演じた人の人柄がにじみ出る。アンサンブルは、一人一人が持てる力で参加する共生の時間である。

このように音楽には、多様な価値がある。私がこう考える基礎には、幼いころの校長先生とのすてきな時間がある。

(国立音楽大副学長 東京都)